

新規課題の募集にあたっての改善項目（案）

資料3-1

番号	指摘事項	意見・指摘等の内容	時期等	対応方針(案)
1	ソフト／ハード分野の区分けについて	<p><u>ソフト／ハード分野の区分けについて、応募者が選定してはどうか。</u></p> <p>ソフト／ハード分野の分け方について、研究テーマによっては明確に区分できないものもあるため、委員名簿を公開しているのであれば、今後は応募者が応募時に選定するというやり方もある。</p>	第17回会議 (H24.3.9)	新規募集要領を修正 (資料3-2、3参照)
2	広報活動の推進について	<p><u>充実した応募を増やすためのさらなる広報活動をお願いしたい。</u></p> <p>去年も大分いろいろやってみたが、応募を増やすための広報活動をぜひ委員の方にもお願いしたい。応募者が広がってはきているが、まだ少し限定的である。より多くのところから応募いただいた方が良い研究が出てくるのではないかな。</p> <p>地域での恒常的なネットワークづくりを通じた行政における現場ニーズの的確な把握が必要ではないかな。</p>	第18回会議 (H24.6.5) フォローアップ調査	公募に係る告知活動を強化(資料3-5参照)
3	応募案件の国際化について	<p><u>国際展開に資する研究を本制度で募集してはどうか。</u></p> <p>社会インフラの海外へのパッケージ輸出が話題になっていることもあり、最初から国際展開を目的とした研究を本制度で募集することも考えられるのではないかな。</p>	第18回会議 (H24.6.5)	新規募集要領を修正 (資料3-2、3参照)
4	研究の継続性について	<p><u>終了後(約5年間)はフォローアップ調査を行う旨を記述してはどうか。</u></p> <p><u>応募者に提案時における終了後の研究の継続性について記述を求めてはどうか。</u></p> <p>そろそろ最初の研究テーマに戻って、活用事例に関する調査を研究代表者に実施してみてもどうか。活用が不十分な研究も含め、本会議としてのレビューも必要ではないかな。</p> <p>フォローアップは大変重要であり、過去の研究も含めてどこで使われたか、あるいはまた違うものに発展したのかということを追跡することは、審査側にとっても有用である。</p> <p>着実に研究成果を確保するためには、終了後も継続して研究を進めていくことが必要ではないかな。</p>	第18回会議 (H24.6.5) フォローアップ調査	新規募集要領を修正 (資料3-2、3参照)
5	募集テーマについて	<p><u>募集する研究テーマとして、国際競争力の強化やコスト削減、構造物の開発などを記述してはどうか。</u></p> <p>土木研究者の多くが維持管理に向いており、新しい構造の開発など前向きな分野への研究開発も必要。新規の案件については、以下の観点に重点をおく記述をしてはどうか。</p> <p>①国際競争力の強化(技術力のみならずコスト等を含めた総合的な競争力)にも資する研究開発 ②コスト削減に関する研究開発 ③新技術を活用した新しい形式の構造等に関する研究開発</p>	フォローアップ調査	新規募集要領を修正 (資料3-2、3参照)
6	試験フィールドの提供について	<p><u>試験施工が実施できる箇所の確保が必要ではないかな。</u></p> <p>新技術の効果を対外的に説明できる具体的な実績やデータを確保するためには、試験施工箇所の確保が必要ではないかな。</p>	フォローアップ調査	地整、事務所から大学への新規募集の周知、紹介の実施強化